

非血縁者間末梢血幹細胞採取認定施設

採 取 責 任 医 師 各 位

輸 血 責 任 医 師 各 位

公益財団法人 日本骨髄バンク
ドナー安全委員会

末梢血幹細胞採取後、発熱・骨痛のため再入院となった事例について

このたび、末梢血幹細胞採取を実施し退院後に発熱・強い骨痛のため、再入院となった事例が報告されました。

ドナー安全委員会では非血縁者間ドナーに対する G-CSF 投与に伴う副反応により生じた症状による再入院事例であり、情報共有の観点からご報告いたします。

■採取施設からの報告によれば以下のような経過です。

〈ドナー情報〉 40 歳代 男性

〈経過〉

Day -3 G-CSF 投与 2 日目

骨痛自制内、体温 36℃、脇腹の張り(エコーで脾腫なし)、投与後体温 35.7℃

Day -2 骨痛中等度自制内(カロナール服用なし)、体温 37.1℃、投与後体温 36.8℃

Day -1 骨痛自制内、発熱なし。13:15 カロナール 400mg 服用

Day 0 PBSCH 採取後、しびれあるが徐々に軽減する。23:11 カロナール服用

Day +1 3:00 骨痛あり、カロナール服用。他の訴えなく、予定通り退院とする。

帰宅後より徐々に疼痛増強あり、15:00 カロナール服用

19:30 採取施設にドナーより連絡あり

- ・帰宅後 38.0℃台の発熱、強い骨痛あり。息切れ等その他の随伴症状なし。
- ・受診を促すも症状が辛いため、受診をするのは難しいとのこと。感染症合併や間質性肺炎、アナフィラキシー、脾破裂などを疑う症状なく、G-CSF による発

熱、骨痛と判断し、カロナール服用で経過観察し、症状悪化時には救急来院するように伝える。

・22：00 にカロナール服用するも、効果なし、体温 39.6℃。

Day +2 採取施設よりドナーへ確認の連絡

市販薬 EVE(イブプロフェン：NSAIDs)服用しやや軽減あり。

症状確認し来院を促す。

来院時 全身の骨痛（大腿、肋骨下部、上肢）あり

体温 38.4℃ 血圧 136/86 mm Hg 脈拍 88 回/分 SpO2 96%

インフルエンザ陰性 血液培養陰性 CXP 異常なし

補液開始、発熱・骨痛に対し 14：11 ロキソプロフェン Na60 mgを投与し、経過観察のため再入院とする。

Day +3 5：25 ロキソプロフェン Na 60mg 服用し、疼痛軽減、最高体温 37.2℃

Day +4 最高体温 36.5℃、疼痛なし

Day +5 最高体温 36.2℃、疼痛なし

Day +6 退院 36.5℃、疼痛なし

(検査データの推移)

| | Day-4 | Day-3 | Day-2 | Day-1 | Day0 | Day+1 | Day+2 | Day+3 | Day+6 |
|-----|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| WBC | 5,200 | 29,600 | 30,000 | 35,100 | 38,500 | 34,900 | 19,100 | 10,800 | 4,900 |
| CRP | 0.05 | | | 0.34 | 0.61 | 0.79 | 3.03 | 6.23 | 0.76 |
| ALP | 333 | | | 577 | 551 | 548 | 584 | 478 | 256 |
| LDH | 135 | | | | 305 | 247 | 289 | 190 | 157 |

【採取施設見解】

再入院後はカロナールではなく、解熱鎮痛薬ロキソプロフェンの投与で症状は軽快し、CRP も低下したため、経過から G-CSF による発熱、疼痛と考えられる。

G-CSF の骨痛予防には、副作用が少ないことからアセトアミノフェンを投与していたが、今回の例ではアセトアミノフェンは全く効かず、ロキソプロフェンが著効した。

そのためロキソプロフェンの投与により、早期に症状が軽快していた可能性があった。

以上

■本件に関する問い合わせ先：日本骨髄バンク ドナーコーディネーター部

担当：杉村・窪田

TEL03-5280-2200/FAX03-5283-5629